

命が傷つくこと

ーその後の生の営みに及ぼす影響（原爆被爆を例に）

2025年10月23日(木) 開場13:45 開演14:30

参加費
無料

講師



NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会理事長

村上 須賀子 先生

経歴

1945年因島に生まれる。県立広島女子大学学生時代に被爆体験継承活動に参加。広島市民病院に医療ソーシャルワーカーとして入職。「原爆被害者相談員の会」に関わり、原爆小頭症被爆者と親の会「きのこ会」より支援依頼を受ける。安佐市民病院に転勤。全ての小頭症被爆者の認定に関わった院長（産婦人科医）と、小頭症被爆者の被爆50年時調査を実施。当事者の川下兼子さん、ヒロエさん親子と出会う。その後教職に転じ、医療福祉講座を担う。元広島文化学園大学教授。

講師



原爆被爆者

川下 ヒロエ 先生

経歴

1945年8月6日、爆心地から約1キロの広瀬北町（現中区）にいた母兼子のおなかの中で、原爆に遭った。妊娠初期に強力な放射線を浴び、生れながら知的、身体障害がある。趣味は詩作と絵画。

会場

新日本造機ホール（くれ絆ホール）

〒737-0051 広島県呉市中央4丁目1-6

公開講座

14:30～16:00

講演テーマ：命が傷つくことーその後の生の営みに及ぼす影響（原爆被爆を例に）

このところ、戦禍の映像を見ない日がありません。そして地震、豪雨災害などによる瓦礫の映像もまれではなくなってきました。映像は一瞬ですが、そこに居た（居る）人々のその後の「生」はどのように営まれるのでしょうか？子どもは、親は、家族は、そして障害を負った人はどう生きてきたのか。「わが身に起こったらどうだろう」と想像力を働かせてみてください。長年医療ソーシャルワーカーとして命の現場で人々の生活史を聞き取ってきました。被爆80年、原爆被爆者の80年を例に命が傷つくことの悲惨を一緒に考えてみたいです。

お問い合わせ

広島文化学園大学 呉 阿賀キャンパス
TEL 0823-74-6000

※事前のお申し込みは不要です。
参加を希望される方は当日会場へお越しください。

主催 広島文化学園大学看護学部
共催 呉市
後援 広島文化学園大学人間健康学部
広島文化学園大学学芸学部
広島文化学園短期大学